

農林水産、自然、防災、健康への影響を調べました

三重県気候変動適応センターでは、県内における気候変動について、様々な分野の方が、気候変動の影響をどのように感じ、対策を講じているのか等について、ヒアリングを行いました。

聴き取った内容は、「私たちの暮らしと気候変動 フィールドワーク2019」として冊子に取りまとめました。

項目	対象者	ヒアリング内容
イチゴ	三重県農業研究所	夏季の高温化で、イチゴに炭疽病発生のリスクが高まっている。収穫開始時期も遅くなっている。18年かけて、炭疽病に強くておいしい新品種「かおり野」を開発した。「かおり野」の生産は全国に広がっている。
お茶	元 三重県農業改良普及員	新茶の摘み取り時期が早まっている。秋から春にかけて、茶の木が休む期間が短くなっている。茶の品質が下がる心配がある。夏の水不足で、茶の木が枯れる恐れが強まっている。
きのこ	三重県林業研究所	夏場の気温が高いことで、きのこ栽培施設の空調経費が増加している。高温でも栽培可能なきのこを選定し、栽培方法を開発した。
養殖漁場	三重県水産研究所	2016年に魚病の診断件数が増加した。原因として海水温の上昇を疑い、県内4か所の養殖漁場で詳細な水温測定を開始した。 過去の長期的なデータを検証したが、沿岸での海水温の上昇は確認出来なかった。海水温は年毎のばらつきが大きい。
ブリの稚魚	三重県立水産高等学校	授業の一環としてモジャコ（ブリの稚魚）の捕獲を行っている。2019年は、モジャコの成長が早く、捕獲が出来なかった。モジャコの成長の原因は、エサの量、海水温の上昇等が考えられるが、特定は困難。2017年8月からの黒潮の大蛇行の影響もあり得る。
ギフチョウ	名張市立薦原小学校	ギフチョウは人の手が入った里山で育つチョウ。開発や里山の荒廃で、ギフチョウの生息に適した環境は減少してきた。桜の開花が早まるのと同様に、ギフチョウの羽化も早くなっている。
ネコギギ	鈴鹿高等学校	絶滅が危惧される淡水魚ネコギギの保護と繁殖に取り組んでいる。人工的な繁殖は着実に成果を上げているが、ネコギギの生息環境は極めて脆弱。豪雨による土砂流入がネコギギの生息を脅かしている。
アカウミガメ	ウミガメネットワーク三重会長	砂浜の減少が、アカウミガメの産卵に悪影響を及ぼしている。2018年、たくさんの子ガメが巣穴を出で、海へ向かうのを確認している。原因として、砂中温度の高温化を疑っている。
松名瀬干潟の生態系	三重中学校・三重高等学校	南方系のカニであるハクセンシオマネキが増加し、生息場所も広がっている。2019年は、例年、順調に生息していた場所でアマモが枯れた。
防災研究・研修	みえ防災・減災センター	大台ヶ原から尾鷲にかけては全国屈指の多雨地帯であるが、最近は、過去に大雨が降ったことのない地域にも大雨が降るようになり、災害はどこでも起こるということを前提に対策を進める必要がある。
自主防災組織	津市自主防災協議会長	行政は温暖化に対応したインフラ整備を進めているが、それだけでは不十分。温暖化を自分事として捉えるような啓発が重要。個人の意識が変われば、行動が変わると。
災害ボランティア	みえ災害ボランティア支援センター（みえ防災市民会議議長）	排水能力を超えた、大雨による浸水被害が増えている。地域毎の事情を反映したインフラ整備が必要。2004年に全国で大規模水害が多発して以降、全国的に水害時のボランティア活動が確立した。

「私たちの暮らしと気候変動 フィールドワーク2019」の全文は、
三重県気候変動適応センターのウェブサイトでお読みいただけます。
<http://www.lccac-mie.org/fieldwork/>

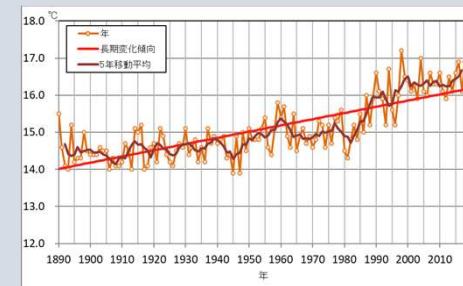


私たちの暮らしと気候変動

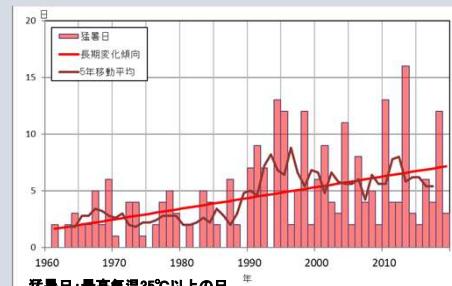
～いま、三重県で起きていること、これから起きること～

三重県の気候が変化しています

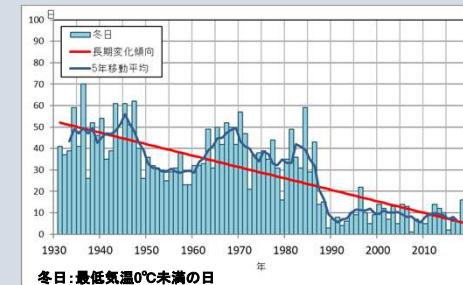
資料提供: 津地方気象台(データはいずれも津市における観測結果)



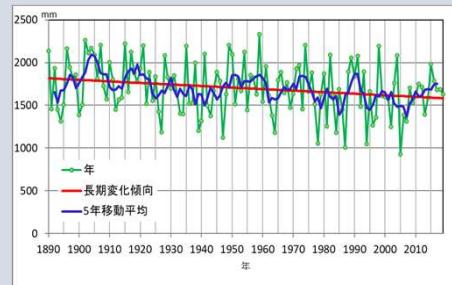
年間平均気温は
100年あたり 1.67°C 上昇しています



猛暑日が
50年あたり 9.1 日増えています

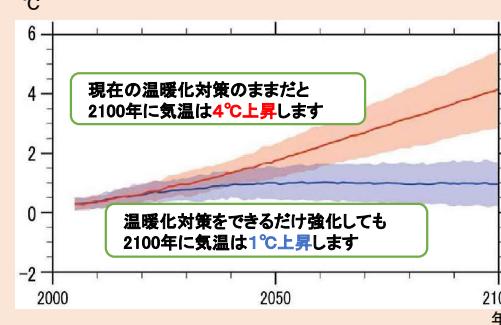


冬日が
50年あたり 26.7 日減っています



降水量が
100年あたり 181mm 減っています

気温はさらに上がりります



現在の温暖化対策のままだと
2100年に気温は4°C上昇します

温暖化対策をできるだけ強化しても
2100年に気温は1°C上昇します

世界平均地上気温変化(1986~2005年平均との差)
IPCC第5次評価報告書記載のグラフを加工

気温以外の変化も心配です

- 日本近海の海水温は、過去100年で1.14°C上昇しています。
- 2100年に海面水位は最大1.1m上昇することが予測されています。
- (過去数十万年の間、280ppm以下だった)大気中の二酸化炭素濃度が400ppmを超えて、毎年、最高値を更新しています。

緩和と適応 二つの対策が必要です



緩和
省エネルギーの推進
エコカーの普及
再生可能エネルギーの利用拡大
植林によるCO₂吸収量の増加

適応
農作物の新品種の開発
海面上昇に備えた堤防のかさ上げ
エアコンの適切な使用や水分補給による熱中症対策

20世紀の100年間で、日本の平均気温は約1°C上がっています。

農業、自然災害、健康など様々な分野で、すでに、私たちの暮らしには、気候変動の影響が及んでいます。

21世紀の100年間で、気温はさらに上がる予測されています。現在の温室効果ガス削減対策のままだと4°C、対策をより強化した場合でも1°C、上昇することが見込まれています。

このため、気候変動を抑える対策（緩和）と気候変動の影響を回避・低減する対策（適応）、二つの対策を講じていく必要があります。

さまざまな分野で影響が心配されています

農林水産業



水環境・水資源



自然生態系



健康



国民生活・都市生活



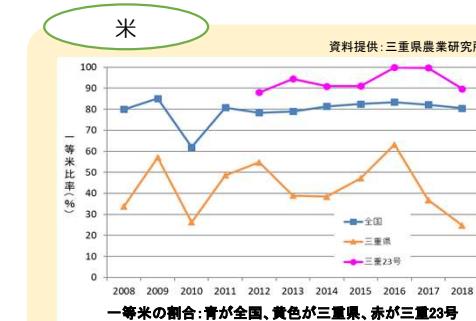
自然災害・沿岸域



産業・経済活動



三重県でもすでに影響が出ています



夏の暑さで良いお米が出来にくくなっています。県では、暑さに強いお米「三重23号」（ブランド名「結びの神」）を開発しました。もっちりして、冷めてもおいしいお米です。



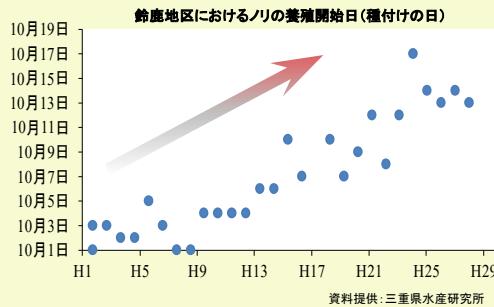
暑くても元気に育つか試験中

乳牛

乳牛（ホルスタイン）はオランダが原産です。暑くて湿気の多い日本の夏は苦手です。暑いと牛乳の生産量が減ります。受胎率が下がるため、子牛も生まれにくくなります。



黒ノリ



海水温が下がりにくく、不安定なので、黒ノリの養殖開始が遅れています。県では高い水温でも栽培できる新品種「みえのあかり」を開発しました。



学校

松阪市の天白小学校では、2018年の夏、教室の室温が高くなつたため、2日間にわたり、午後の授業を中止しました。

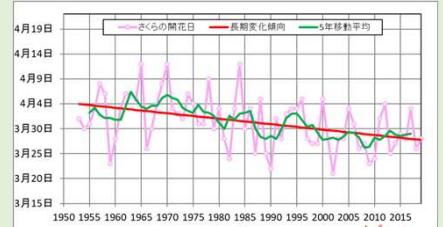


プール

名張市教育委員会では、熱中症予防のため、市民プールの利用中止基準を作りました。2019年は10回、利用を中止しました。



さくら



津市の偕楽公園のソメイヨシノの開花日は、50年あたり5.5日早くなっています。

